

協議事項②

地域公共交通確保維持改善事業  
(地域内フィーダー系統)の事業評価について

令和7年度 第2回福崎町地域公共交通活性化協議会

令和8年1月19日(月)

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（地域公共交通計画に基づく事業）

令和8年1月19日

協議会名： 福岡市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名： 地域内ライダーシステム確保維持費用国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
神崎交通(株)	<p>【福岡市・姫路市連携コミュニティバス「ふくひめ号」の運行】                      運行系統名：姫路市連携①(通勤便A)、姫路市連携③、③-3、③-4(連携便)                      工業団地を經由し、JR福岡駅とJR溝口駅を結ぶ通勤便A、福岡市内の文化センターから姫路市内の香寺・宮脇を經由し、文化センターを結ぶ連携便を運行。                      全ての系統をワンボックス車両1台で運行。</p>	<p>・観光交流センター等の施設に時刻表を配置し、JR播但線利用者を含む施設利用者等に対して周知と利用促進を行った。                      ・沿線の自治会長へ利用状況の説明を行った。                      ・鉄道や路線バスといった幹線系統のダイヤ改正に合わせて乗り継ぎしやすいダイヤの検討を行った。</p>	<p>A                      計画どおり事業は適切に実施された。</p>	<p>・利用者数の目標72人/日に対し、実績79人/日であった。                      ・利用者1人当たりの行政補助額の目標440円/人未満に対し、実績435円/人であった。                      ・交通収支率の目標20.0%に対し、実績20.7%であった。</p>	<p>・地域、利用者、関係団体の意見に今後も柔軟に対応し、持続性の高い運行見直しを図る。                      ・モバイル・マネジメントを継続的に実施し、利用促進を図る。</p>

事業実施と地域公共交通計画との関連について

令和8年1月19日

協議会名：	福崎町地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名：	地域内ファイダーシステム確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>本町及び姫路市では、平成27年度より地域創生にかかる広域連携の制度である「連携中枢都市圏構想」に取り組んでいる。その取り組みの一環として圏域住民の生活関連機能サービスを向上させるため地域公共交通の維持確保に向けた取り組みを行っており、本町及び姫路市が行政の垣根を越えて連携し、公共交通空白・不便地域での移動困難者のニーズに対応するため、地元自治会や企業とも協力し、買い物や通院、通勤、雇用・就業支援などの課題を解決し、持続可能な移動の仕組みを構築する必要がある。</p> <p>【運行地域特徴と基本方針】          姫路市香寺町中寺地区及び船津地区は近くに公共交通機関がない公共交通空白・不便地域である。また、当該地区は高齢化も急速に進んでおり、今後免許返納者が増えることも予想される。姫路市香寺町中寺地区に隣接する福崎町工業団地では、自動車以外の通勤手段の確保や、鉄道駅からの2次交通の確保、障がい者雇用に伴う移動手段の確保についても重要な課題がある。このため、地域公共交通確保維持改善事業により、福崎町・姫路市連携コミュニケーションバス(ふくひめ号)路線を確保・維持することで、住民の生活交通手段の存続に加え、地域の価値や魅力の向上に結びつけていくことが必要である。</p>

## 福崎町地域公共交通活性化協議会（ネットワーク全体の評価）

### 1. 協議会が目指す地域公共交通の将来像

#### 公共交通の将来像

##### ○地域特性

本町は、兵庫県の中央部からやや南寄りに位置し、中国縦貫自動車道と播但連絡道路が交差する交通の要衝となっている。町域は、東西 10.1 km、南北 11.5 km、総面積 45.79 km<sup>2</sup>で、北は市川町、南と西は姫路市、東は加西市に隣接している。本町には、鉄道、路線バス、コミュニティバス、タクシー等の公共交通が運行されており、町民の日常生活の移動手段としての役割を担っている。

##### ○基本理念

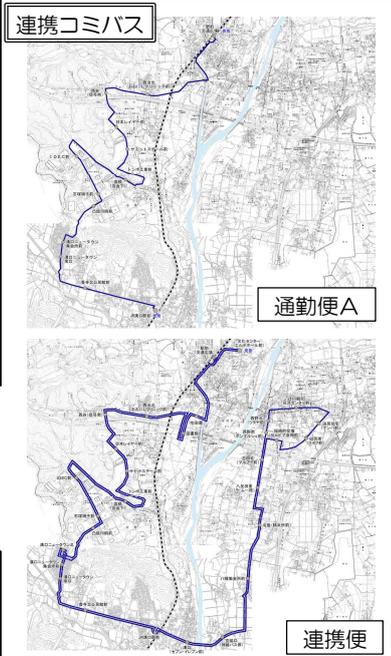
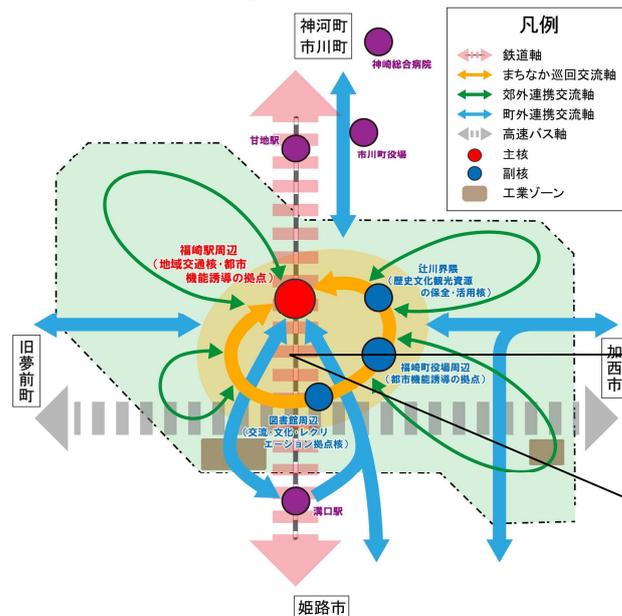
「一人ひとりが活動しやすく 誰もが住みよいまち・福崎」

##### ○基本方針

- ・町外との連携による交流人口の増加
- ・町内における移動利便性の向上
- ・“まちの玄関口”の活性化
- ・利用しやすく持続可能な公共交通づくり

#### 公共交通ネットワークのイメージ図

<本町が目指す公共交通網>



## 2. 目標設定及びその達成状況の評価に関する事項

### ○数値目標

- ・福崎町・姫路市連携コミュニティバス「ふくひめ号」 1日あたりの乗車人員 72人
- ・「ふくひめ号」利用者1人当たりの行政補助額 440円/人未満
- ・「ふくひめ号」交通収支率 20.0%以上

## 3. 目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容

### (1) 取組経緯

#### 福崎町・姫路市連携コミュニティバス「ふくひめ号」

令和3年4月1日より、本格運行を開始

運行方法：路線定期運行 運行事業者：神崎交通株式会社

運行系統：通勤便A〔上り〕（JR福崎駅～工業団地経由～JR溝口駅）

通勤便A〔下り〕（JR溝口駅～工業団地経由～JR福崎駅）

通勤便B（JR溝口駅～工業団地経由～JR溝口駅）

連携便（文化センター～香寺・宮脇経由～文化センター）

運行日・便数：月曜日～金曜日は11便、土曜日は3便

令和4年4月1日、運行再編

運行方法：路線定期運行 運行事業者：神崎交通株式会社

運行系統：通勤便A〔上り〕（JR福崎駅～工業団地経由～JR溝口駅）

通勤便A〔下り〕（JR溝口駅～工業団地経由～JR福崎駅）

通勤便B（JR溝口駅～工業団地経由～JR溝口駅）

連携便（文化センター～香寺・宮脇経由～文化センター）

（文化センター～香寺・宮脇経由～JR溝口駅）

（溝口ニュータウン北～香寺・宮脇経由～文化センター）

運行日・便数：月曜日～金曜日 12便

### (2) 目標を達成するために行う事業・実施主体・事業概要等

#### 補助対象事業

地域公共交通確保維持改善事業				
事業	実施主体	着手・実施期間	種別	事業概要
福崎町・姫路市連携コミュニティバス「ふくひめ号」	福崎町	R3.4.1～	フ	運行系統名：姫路市連携①（通勤便A） 姫路市連携③、③-3、③-4（連携便） 工業団地を経由し、JR福崎駅とJR溝口駅を結ぶ通勤便A、福崎町内の文化センターから姫路市内の香寺・宮脇を経由し、文化センターを結ぶ連携便を運行

【種別】 幹：地域間幹線系統、フ：地域内フィーダー系統、策：計画策定事業、利策：利便増進計画策定事業、利推：利便増進計画推進事業、継策：運送継続計画策定事業、継推：運送継続計画推進事業

その他補助事業			
事業	実施主体	着手・実施期間	事業概要

**非補助事業**

事業	実施主体	着手・実施期間	事業概要

(3) 生産性向上の視点から取り組んだ事業

※「(2) 目標を達成するために行う事業・実施主体・事業概要等」のうち、生産性向上を目指して取り組んだ事業について、その内容を記入して下さい。

※上記以外の事業においても、該当する事業・取組等があれば、その内容を記入して下さい。

事業	取組内容	効果目標
福崎町・姫路市連携コミュニティバス「ふくひめ号」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミバスの利用促進と周知を兼ね、観光交流センター等の施設に時刻表を配置</li> <li>・沿線の自治会長への利用状況の説明</li> <li>・鉄道や路線バスとの接続を勘案した時刻表の検討</li> </ul>	コミバス利用者の増加

4. 具体的取組に対する評価

通勤での利用が堅調であり利用者数は高い水準を維持している。  
 利用者数の目標 72 人/日に対し実績 79 人/日、利用者 1 人当たりの行政補助額の目標 440 円/人未満に対し実績 435 円/人、交通収支率の目標 20.0%に対し実績 20.7%と、いずれも目標は達成できている。更なる利用者増に向けて引き続き取り組んでいく。  
 交通弱者の日常生活の移動手段確保のため、地域住民や事業者等と連携しながら持続可能な公共交通ネットワークの構築を図っていく。

## 5. 自己評価から得られた課題と対応方針

課 題	課題への対応方針
<p>目標は達成できており、昨年課題としていた連携便の利用は増加したものの、通勤便と比べて利用者は少ない状況である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域、利用者、関係団体の意見に今後柔軟に対応し、持続性の高い運行見直しを図る。</li> <li>・モビリティ・マネジメントを継続的に実施し、利用促進を図る。</li> </ul>

## 福崎町地域公共交通活性化協議会（これまでの経緯）

1. 昨年まで（直近）の二次評価の活用・対応状況		
昨年まで（直近）の二次評価における事業評価結果	事業評価結果の反映状況（具体的対応内容）	今後の対応方針
<p>適切に事業を実施し、目標・効果が達成されたことは評価できる。</p> <p>今後も、地域、利用者、関係団体と対話しつつ、ニーズに対応した運行内容の見直しに取り組み、また、モビリティマネジメント等の利用促進活動に取り組み、利用者の増加につなげ、持続可能な公共交通が構築されることを期待する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光交流センター等の施設に時刻表を配置し、JR 播但線利用者を含む施設利用者等に対して周知と利用促進を行った。</li> <li>・沿線の自治会長に低迷している連携便の利用状況について説明を行った。</li> <li>・鉄道や路線バスといった幹線系統のダイヤ改正に合わせて乗り継ぎしやすいダイヤの検討を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域・利用者、関係団体の意見に今後も柔軟に対応し、持続性の高い運行見直しを図る。</li> <li>・モビリティマネジメントを継続的に実施し、利用促進を図る。</li> </ul>

2. アピールポイント、特に工夫した点など
<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄道及び路線バスとのダイヤ接続を維持することで利便性の向上を図った。</li> <li>・公共交通総合時刻表を作成・配布し、利用促進を図った。</li> <li>・工業団地協議会、沿線自治会等との意見交換を実施し、情報共有を行うとともに、運行ダイヤ及びルートの検討など、連携して運行継続に向けて取り組んでいる。</li> <li>・沿線自治会の代表者に危機感をもってもらうため、利用が低迷する連携便の状況について説明を行った。</li> </ul>